

令和8年度第1回坂井市地域公共交通会議 会議録

開催日時 令和8年6月11日(木)午後2時00分～
場 所 多目的研修集会施設1階 交流ホール
出席者 三寺会長
住民代表:嶋川委員、高間委員、大崎委員、前田委員
関係機関:平井委員、中村委員(代理出席)、辻良委員、岡本委員、進士委員、
清水委員、東山委員、島田委員
事業者:佐々木委員、坂上委員、矢崎委員(代理出席)、松田委員
関係部署:辻貴委員、伊藤正委員、伊藤剛委員、高橋委員 (計21名)
欠席者 住民代表:川崎委員
関係機関:西委員、関委員
事業者:小林委員 (計4名)
事務局 生活環境部・浦部長、公共交通対策課・島野課長、高嶋、小林、西澤、小藤

1. 開会

2. 委嘱書交付

委嘱書交付

委員出席状況・会議成立(21/25人)を報告

3. 市長あいさつ

4. 会長選出

互選の結果、福井工業大学三寺委員に決定

5. 会長あいさつ

6. 承認事項

(1)令和7年度決算報告について(資料1)

<事務局>(資料1の基づき説明)

<東山委員>(監査報告)

【質疑なし】

【賛成全員につき、承認】

7. 報告事項

(1)オンデマンド型交通・コミュニティバスの運行実績について（資料2）

<事務局>（資料2に沿って説明）

<会長>

昨年の資料と比較をしてみた。オンデマンド交通の利用登録者数が減っているが、考察があれば教えてください。

<事務局>

事業が3年目になり、ある程度認知されてきた。登録に関しては落ち着いてきて、登録された方が利用されるよう整備をしていきたい。

<会長>

昨年度は 6,552 の登録があり、1,500 人程度の利用があった。実利用者数は伸びており、事務局からの説明通りかなと思う。もう 1 点、LINE の利用が増えている。LINE アプリから簡単に登録と利用ができるからご高齢の方も利用が多いと聞いた記憶があるが、そうなのか。

<事務局>

LINE の方がアプリより使いやすい。アプリでは、行きたいところを探さないといけないが、LINE では、常に行くところ、降りるところを登録でき、使いやすいので、多く利用されていると聞いている。

(2)坂井市交通分析シートについて(資料3)

<事務局>（資料3に沿って説明）

<会長>

竹田線は、減便の検討があり、昨年、平日日中の減便がかなり大幅にあったかと思うが、不都合な状況は起きていないという解釈でよいか。

<事務局>

平日日中便を減らした影響で、年間利用者数は約 4,000 人落ち込んだ。しかし、その方たちは、エリア拡大により、竹田地区を走るようになったイータクで通院、通学、日常の利用をしていただいていると考察している。

(3)えちぜん鉄道の運行実績について(資料4)

<えちぜん鉄道株式会社>（資料4に沿って説明）

<会長>

高校の選び方が変わってきているのではないかという話があったが、第二次地域公共交通

計画の18ページの指標4に関連し、まさに送迎から公共交通利用への転換が図られているかどうかというところも、非常に重要な位置付けになるので、他の公共交通でも見えるようなアクションというところをやっていきたい。来年度どうなっているかもよろしく願います。

えちぜん鉄道の利用者数が順調に伸びてきており、公共交通ネットワークの大事な時期。ライダー交通でどうつなげるか、あわせて考えていかなければならない。

(4)ハピラインふくいの運行実績について

<株式会社ハピラインふくい> (数値が確定していないが、1日当たり約21,000人は見込めることを説明。資料後日)

(5)令和7年度坂井市地域公共交通計画の達成状況について(資料5)

<事務局> (資料5に沿って説明)

<会長>

指標5つあるうち、1つだけが達成できた。社会情勢の変化や減便の影響もあった。計画当初の目標設定の妥当性、再設定などの議論も必要かと思った。

<住民代表委員から複数>

・身の回りの方も、自分も免許(自家用車)が手放せない。まずは、体験しておくことが大切だと感じた。

・第二次地域公共交通計画をどうやって実践していくかが大事なことだと思っており、どうやって市民の皆様理解していただけるか、わかりやすく伝えることができるよう、私も見ているながら頑張っていきたい。

・車を運転しているとバス停のある所を意識していない。いろいろな乗り物に乗りたくなったときに、ある日突然というのは難しいとわかった。いろんな情報を伝えて、利用への周知が大切だと思った。

・イータクの勉強会を高齢の方たちとした。まだとっつきにくい方はいらっしゃると感じる。

・公共交通の行政負担額が大きく、交通を利用させていただく側としてどのようにするといいか勉強もしたい。

<会長>

住民代表の方々から発言いただいた。第二次計画では、指標7として、公共交通の利用促進への積極的な取組と書き、これまでの指標5より書きぶりを変えて、よりハードルを下げて広めていくというところをやっていくので、ぜひ参画いただき、策を組んでいきましょう。

<運輸支局>

先ほど、公共交通ハンドブックの話もあったが、坂井市は、市全体の交通網がこうですよ、ということホームページに掲載しているのがいい。意外に全体を載せている自治体は少ない。

ここに住んでいて、ここへ行きたい、となれば、ホームページを見ればわかる。本当に行けるのか、ちょっと行きづらいが行ける、ということを考えてもらうのもいいなと思った。

<会長>

ほかの自治体の委員もしているが、公共交通ハンドブックを作っている自治体がない。ここに載せきれない情報は、ホームページへの誘導が図られている。ただ、そういった情報を得ることができない方々にどうすればいいかを加えて探求していく必要がある。この冊子を存分に使っていただき、ホームページも充実しているので活用いただきたい。

(6)三国・小松空港線直通バス実証事業について(資料6)

<観光交流課> (資料6に沿って説明)

<えちぜん鉄道株式会社>

実証の状況などを共有させていただき、可能であれば何か連携させていただきたい。関空イン、新幹線インの方を小松アウトという流れもできるのであれば、相談させていただきたい。

<京福バス株式会社>

北陸新幹線の敦賀延伸により、弊社の運行する福井・小松空港線の利用者は低迷している。一方で、小松空港を利用する外国人のお客様は増えている。福井県はインバウンドの要求がまだまだ弱く、実証を通じていろいろな可能性を探って一人でも多くお乗せ出来るようにしたい。

<(一社)福井県タクシー協会坂井支部>

三国の宿泊者数は増えている。こういったことをすることで、インバウンドにつながる。

8. 協議事項

(1)令和8年度坂井市地域公共交通会議収支予算(案)について(資料7)

<事務局> (資料7に沿って説明)

次回は 8 月 25 日(火)14:00～ 多目的研修集会施設 1 階 交流ホール

<会長>

予算や決算が 0 円であってもこの会議で協議をする必要があるのかお聞きしたい。

<福井運輸支局>

こちらの方から縛っているものではないと思う。規約に基づいていただければよい。

<会長>

事務局、よろしいでしょうか。

<事務局>

財務規程があり、そちらの改定も検討したい。

<会長>

事業計画の報告は必要かと思うので、次年度以降もそこは残したい。ほか、よろしいか。

【その他質疑なし】

【賛成全員につき、協議事項承認】

9. その他

(1) 自動運転実証事業について

<事務局>

市長があいさつで述べたように、自動運転実証事業の休止を報告させていただいた。令和 7 年度自動運転「レベル 2」、運転手は乗っているが、運転は機械に任せることで春江支所-春江病院間を運行し、令和 9 年度に「レベル 4」、人が乗らずに運転させ、令和 11 年度に春江地区の指定エリアの全区間での運行を目指していた。令和 8 年度、国の補助の要件が、車両の購入が必須、令和 9 年度までに実装という厳しいものになった。また、令和 10 年度以降の維持管理は市の単独予算となる。国の支援なくして、事業は成り立たないと判断し、一旦休止とし、機会があれば再び取組みたい。

<大崎委員>

外国では走行しているようだが、技術的な面では実現可能なのか。

<事務局>

事業者と話をすると、技術的には可能であるが、全ての外的要因に対応するにはまだまだ課題が多い。車体本体もシステム使用料も高額である。法整備や採算性の問題もある。

10. 閉会

次回開催予定 8月25日(火) 14時から